

---

# 神の箱庭に生きてるらしい俺達の意志

東風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神の箱庭に生きてるらしい俺達の意志

### 【Zマーク】

Z9845A

### 【作者名】

東風

### 【あらすじ】

この世はわからなうことだらけです。

あいつは唐突に言った。

「私って誰だ

と思う？」

「誰つて、おまえはおまえだろ」

「そうね、私は私。でも違うの。私は私であつて私じゃない」

妙に満足そうな顔であいつは続けた。

「自分であつて自分じゃない。でも他人  
でもない。」

「・・・わけわからんねえよ

「そうね。当然だわ。私もわかつてないもの」

あいつは神妙な顔をこっちに向ける。

「そもそも私は本当に自分の意志で動いて  
いるのかしら？」

「どういうことだ？」

「実は私達は操り人形みたいなもので、誰か・・・そうね、神様に  
操られてるってこともあるわ」

「・・・頭大丈夫か？」

あいつは悲しそうに笑う。

「おかしいか

もね。こんなこと考えるなんて。でも時々私を動かしてるのが私じ  
やないといつて思うの」

「なんで？」

「だつてそうしたらすべてのことを他人のせいにできるじゃない。  
もし私を動かしてるのが神様なら私の失敗も過ちもみんな神様のせ  
い。私にはなんの罪ない」

「・・・」

「私が誰を憎んでも、誰に怒りを感じ誰に負い目をもつてもみんな  
神様がやらせたこと。私はなんの責任も持たなくていい。ただ生き

るだけ

あいつの顔から表情が消えた。

「じゃない。」

「ちょ、ちょっと待てよー。」

あいつはくすりと笑った。

「嘘よ。私、殺人犯にはなりたくないわ」

「おどかすなよ」

「めんなさい。ちょっとふざけてみたの」

あいつは悪戯っ子のように笑った。

「…でもさ、確かにおまえの考え方だと俺達は自分のしたことに対する責任をとらなくていいけどさ」

「うん？」

「好きとか嬉しいって気持ちとかも神様が持たせたものってことじやん？ それって寂しくないか？」

「…そうね、寂しいわ」

「俺は嫌だな、そんなの」

直ぐにこっちを見る。

「俺はやつぱり俺は俺の意志で動いてる

つて思う。ていうか、そう思いたい」

「でも、そんなことわからないじゃない」

「わからなくていいんじゃない？ 俺の意志の有無、神様がいるかないか。全部考えたってわかんないよ。だったら自分の信じることを信じて人生生きたほうがいいぜ？」

「…」

「俺、自分の感情は自分のものだつて思いたいし」

「…そうね」

「それに俺がおまえのこと好きなのは俺の気持ちだし

「は？」

あいつの驚いた顔は結構笑えた。

俺がおまえのことを好きなのが俺の意

志であれ、神の意図であれその事実は変わらない。

神がこの世を動かしてるとしてもそこに生きるのは俺達。

なあ、神様は責任なんてとつてくれないぜ？

すべての代償はいつも俺達に降つてくるんだ。

何を信じるかなんて勝手だけど俺は俺を信じるよ。

(後書き)

この小説、作った私にもよくわかりません。  
でも私の考え方  
を表します。  
おかしいとか矛盾してると  
か思われるかも。  
でも人の心ってそんなもんでしょう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9845a/>

---

神の箱庭に生きてるらしい俺達の意志

2010年12月14日22時16分発行